



高校生多国間交流プログラム
アジアユースリーダーズ 2018
in ジャカルタ

実施報告書

AEON 1%
Club Foundation

目次

【1】概要	2
【2】趣旨	2
【3】目的	2
【4】日程	2
【5】開催国	2
【6】テーマ	2
【7】参加者	2
【8】プログラム構成	3
【9】1位チーム成果発表内容	4
【10】活動の様子	4
チームビルディング&ウェルカムパーティー	4
講義・視察	7
ヒアリング活動	9
ディスカッション・成果発表・表彰式・参加証明書授与・引継ぎ式	10
ディナーパーティー	13
【11】アジアユースリーダーズ2018 in ジャカルタ 参加校一覧	14
【12】参加高校生の感想	15

アジア ユースリーダーズ 2018 in ジャカルタ (第9回)

【1】概要：アジア6カ国からの高校生が一堂に会し、開催地域の社会問題をテーマにしたディスカッションを通じて、価値観の多様性を学ぶと共に、テーマに関する改善・解決策を提案するプログラム。

【2】趣旨：昨年からテーマを「環境保全、生物多様性」から「食と健康」にシフトし、第1弾として食育やその必要性等についての理解を深め、各自の日常生活での浸透を深めるために必要な取り組みについてディスカッションし発表。今年、第2弾として、開催国インドネシアにおける食生活についてレクチャー、視察、消費者へのインタビューを通して学習し、チームディスカッションの上、改善点を提案。

【3】目的：

- 開催国の環境・経済・社会等の問題について英語でディスカッション・発表を行い、多国間交流を通じて価値観の多様性を学ぶとともに同世代の友人ネットワーク構築の機会を提供する。
- 次代を担う若者の社会・環境問題に対する意識の向上、並びに、グローバルリーダーを育成する。
- 現実的な社会・環境問題についての学習、視察、チームディスカッションを通じ、解決に向けたロジックを磨く。

【4】日程： 2018年8月19日(日)～25日(土)

【5】開催国： インドネシア(毎年開催地を変えながら実施)

【6】テーマ： 「インドネシア食生活の考察と改善点の提案」

【7】参加者：	中国	9名	マレーシア	9名	
	インドネシア	15名	タイ	9名	
	日本	34名	ベトナム	9名	計85名

【8】プログラム構成：

- 8月19日 オリエンテーション、講義Ⅰ、ウェルカムパーティー
- 講義Ⅰ
「食料革命における若者の重要な役割」
ダノン 健康・栄養部門 シニアマネージャー ワイラヤティー ニングシ 氏
- 8月20日 講義Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、SMAN78 高等学校訪問・ディスカッション
- 講義Ⅱ
「インドネシアと他の国々における栄養と食生活の変遷」
インドネシア大学 公衆衛生学部 講師 リフカ インドリ アマリア 氏
 - 講義Ⅲ
「インドネシア食生活について」
教育文化省 調査・コンサルタント部門 マネージャー ヘルダ クスン 氏
 - 講義Ⅳ
「インドネシアにおける食生活（保健省提供の資料より）」
教育文化省 食品栄養ディレクター ムタルディン マンシュル 氏
 - SMAN78 高等学校訪問・ディスカッション
校長 リタ ハストウティ 氏
教諭 ソネタ ウェリヤ 氏
- 8月21日 講義Ⅴ、Ⅵ、ヤクルト視察・レクチャー
- 講義Ⅴ
「インドネシア食生活について」
ボゴール農科大学 コミュニティー栄養科 講師
リンバワン 氏
 - 講義Ⅵ
「インドネシア食生活をふまえた食料多様性プログラム」
農業省 食料消費・多様・安全保障ディレクター
トリ アグスティン サトリアニ 氏
 - ヤクルト視察・レクチャー
「シロタ株菌の腸へのはたらきについて」
ヤクルトインドネシア株式会社 サイエンスパブリックリレーションズ
副ディレクター ジミー 氏
ヤクルトインドネシア株式会社 マーケティングコミュニケーション&コマーシャル
ディレクター アントニアス ナババン 氏
- 8月22日 イオンモール BSD CITY にてヒアリング活動
- モールについてショートレクチャー イオンインドネシア人事・IT・ファイナンス・
アカウントティングディビジョン ジェネラルマネージャー スダルマディ サリム 氏
 - ヒアリング活動
- 8月23日 グループディスカッション
- 8月24日 ①成果発表
②ホスト国インドネシア代表生徒への提言引き継ぎ式、表彰式・ディナーパーティー
- 8月25日 帰国

【9】1位チーム成果発表内容：Dチーム「食習慣改善プログラム」



上記チームは、食教育の不足による偏食になる人が増えていることに着目し、以下の解決策を提案。

- ① CEQUAL (Certificate of Quality) 学校食堂の品質保証プログラム
保健省によって設立されたプログラムで、安全衛生を保証するとともに、学校食堂で販売されている食品の栄養成分を保証する仕組み。
コンセプトは、衛生状態と栄養成分の状態を学生に提示することによって、販売される食品の品質情報を明確に提供。
その証明書を店頭で学生が見やすい場所に設置。
- ② Improvement in Home Economic Education (家庭科教育の改善)
教育省による家庭科教育改善プログラム策定。健康的な食生活の重要性を学生に周知。
そのプログラムは、教育省との一貫した協議を通して継続的に改善していき、全国の学校で実施。
- ③ Improving Awareness of Healthy Eating Habits (健康的食習慣の認知改善)
健康上のメリット、ニュース、食事に関するヒントおよびその他の情報をインスタグラムでアピールするプログラムの策定。
食料と健康に関する継続的な更新をすることにより、ソーシャルメディア利用者にアプローチ。

【10】活動の様子：

チームビルディング & ウェルカムパーティー（8月19日）

▶チームビルディング



↑初めて会ったチームメンバーとお互い自己紹介



↑チームリーダーを決めチームの意気込みを発表

▶ウェルカムパーティー

主な出席者

インドネシア保健省 家庭健康局 ディレクター エニ グスティナ 氏
在インドネシアベトナム大使館 三等書記官 グエンド ガン ジアン 氏
在インドネシア日本国大使館 経済部 参事官 荒木 太郎 氏
在インドネシア日本国大使館 経済部 一等書記官 清水 祐介 氏
ジェトロ ジャカルタオフィス 所長 鈴木 啓之 氏
SMAN 29 ジャカルタ高等学校 校長 キャロル ティタレイ 氏
SMAN 78 ジャカルタ高等学校 校長 リタ ハストウティ 氏
SMAN 8 ジャカルタ高等学校 副校長 テグー プリヤント 氏
SMAN ウングラン タムリン高等学校 校長 エルビー ウスミラワティ 氏
ダノン インドネシア 健康 栄養部門 シニアマネージャー ワイラヤティー ニングシ 氏
インドネシア ヤクルト株式会社 マーケティングディレクター 川口 博史 氏
インドネシア ヤクルト株式会社 マーケティングアドバイザー 松崎 健太 氏
イオンインドネシア株式会社 代表取締役社長 菓子 豊文 氏
イオンモールインドネシア株式会社 開発部長 田中 克典 氏
イオンクレジットサービスインドネシア株式会社 代表取締役社長 檜林 靖規 氏
イオンファンタジーインドネシア株式会社 取締役副社長 築山 穰 氏



在インドネシア日本国大使館
経済部 参事官
荒木 太郎 様

(スピーチより抜粋)

今年、日本インドネシア外交関係樹立 60 周年記念であり、若者の親交を深めるイベントが多く開催されています。今回のアジアユースリーダーズプログラムにおいて、ここジャカルタでアジア 6 개국から参加している皆さんにお会いすることができて光栄です。プログラムのテーマが食育であり、皆さんはインドネシア滞在中に食生活について学習し、ディスカッションを通して改善策をプレゼンテーションされると聞いています。インドネシアの食は皆さんそれぞれの出身国と似ているところとそうでないところがあると思います。食に対する政府の取り組みは高まっており、皆さんがお互いに意見交換し合い、そしてプログラムが成功されることを願っています。



在インドネシアベトナム大使館
三等書記官
グエンド ガン ジアン 様

(スピーチより抜粋)

今回のアジア 6 개국高校生多国間交流プログラムである、アジアユースリーダーズを含め、若者をサポートするプログラムを実施することは非常に素晴らしいと思います。また、この機会を大いに活用し、お互いの文化についての意見交換や、友人ネットワークを広げていってほしいと思います。このプログラムのテーマが食生活についてと聞いていますが、食生活は全ての人に関わっており、皆さんがお互いにたくさんの意見を出することができるのではないのでしょうか。皆さんが滞在中に学んだ事をきっかけに、食生活に対する意識が少し変わるのではないかと思います。そして、プログラムが終了した後もそれぞれの国で友人と共有し、学習することを続けていってほしいと思います。

在インドネシア各国大使館代表やご来賓と記念撮影をする各国高校生



マレーシアチーム



ベトナムチーム



日本チーム



▶ホスト国（インドネシア）の歓迎パフォーマンス



↑歓迎パフォーマンスを披露するインドネシア高校生



↑記念撮影

講義・視察（8月19日・20日・21日）

▶ 講義 「食料革命における若者の重要な役割」について 講師：ダノン インドネシア



↑ 講義を受ける各国高校生



↑ 講師に質問をする中国高校生

「インドネシアと他国における栄養と食生活の変遷」について 講師：インドネシア大学、教育文化省



↑ 講義の後質問をする高校生



↑ 講義が終わった後も並んで講師に質問をする各国高校生

▶ 視察 SMAN 78 高校訪問



↑ カフェテリアで提供される食事について話を聴く各国高校生



↑ 食生活についてチームで考えをまとめる各国高校生

「インドネシア食生活」について 講師：ボゴール農科大学、農業省



↑ 講義の様子



↑ 講義の後質問をするベトナム高校生

ヤクルト工場視察



↑ 講義の後質問をするインドネシア高校生



↑ 倉庫でのレクチャーを聞きメモをとる各国高校生



↑ 工場内の水の浄化についてレクチャーを受ける各国高校生

ヒアリング活動（8月22日）

イオンモール BSD CITY にて



↑ショッピングモールについて質問するタイ高校生



↑お客さまへのインタビュー内容をチームメンバーと打ち合わせる各国高校生



↑売場でお客さまにアンケートをとる各国高校生

▶ディスカッション

ディスカッション・成果発表・表彰式・参加証明書授与・引継ぎ式（8月23日・24日）



↑チームディスカッションの様様

▶成果発表



↑Aチーム「"E.E.P"キャンペーン」



↑Bチーム「健康ハウス」



↑Cチーム「移動式健康屋台プロジェクト」



↑Dチーム「食習慣改善プログラム」



↑Eチーム「女性からはじめ、女性からひろげる」



↑Fチーム「インドネシア人により健康的で便利な朝食を」



↑Gチーム「食習慣改善フェスティバル」



第2位

↑Hチーム「E.A.T. (食・認知・戦術) 食の認知獲得戦術」



↑Iチーム「H.E.A.T.健康・教育・農業・技術プログラム」

審査員

	<p>審査員長 インドネシア教育文化省 サリ クスマ 氏</p>		<p>ダノン インドネシア 健康 栄養部門 シニアマネージャー ワイラヤティー ニングシ 氏</p>
	<p>インドネシア農業省 地域食料開発長 スリレベッカ シトルス 氏</p>		<p>ダノン インドネシア 政府・科学業務 シニアマネージャー マルフシタ ハンブルジワティ 氏</p>
	<p>ボゴール農科大学 学生福利厚生 副局長 カトリン ルーシタ 氏</p>		<p>イオンインドネシア マーケティング副ゼネラルマネージャー デマック タンブナン 氏</p>

▶表彰式



今回のプログラムは皆さんにとって非常に充実した1週間であったと思います。9チームのみなさんより、食生活についてのすばらしいプレゼンテーションを拝見させて頂きました。ただ、皆さんの活動はここで終わるわけではなく、ここからが始まりです。それぞれのチームでまとめた提案について、今後も様々な場所で発表し、勉強に活かしてもらえればと思います。

↑プレゼンテーションの講評を述べる審査員長



↑イオン1%クラブ横尾理事長（写真左から5番目）イオンインドネシア菓子社長（写真左から7番目）と記念撮影をする第1位のチームメンバー

▶参加証明書授与



↑アジアユースリーダーズ2018 in ジャカルタのプログラム参加証明書を手に横尾理事長（写真中央）と記念撮影する各国高校生代表

▶引継ぎ式



↑1位のチームリーダーから成果発表を引き継ぐアジアユースリーダーズホスト国のインドネシア高校生代表

インドネシア高校生代表からメッセージ

異なるバックグラウンドを持つチームメンバーと意見を出し合いながら、最終的に考えをまとめ上げることができました。ここにいる参加者だけでなく、皆さんそれぞれの学校で何か発表の機会がある時に、一つのアイデアとして活用してもらえればと思います。

ディナーパーティー



↑中国



↑日本



↑マレーシア



↑タイ



↑ベトナム

↑各国高校生たちによるパフォーマンス

▶表彰式・ディナーパーティー

主な出席者

インドネシア教育省 人物養成課長 アレックス フィルナディ 氏
 インドネシア教育省 トレーニング サリ クスマ 氏
 在インドネシアマレーシア大使館 公使 モハマド ヒダヤ モハマド サウフィ 氏
 在インドネシア日本国大使館 経済公使 高田 真理 氏
 ジェトロ ジャカルタオフィス 所長 鈴木 啓之 氏
 ボゴール農科大学 学生福利厚生 副局長 カトリンルーシタ 氏
 SMAN 29 ジャカルタ高等学校 教諭 ススイ クリスタンティナ 氏
 SMAN 6 ジャカルタ高等学校 校長 ヘルミ ロサナ 氏
 SMAN 29 ウングラン タムリン高等学校 校長 エルビー ウスミラワティ 氏
 ダノン インドネシア 健康 栄養部門 シニアマネージャー ワイラヤティエ ニングシ 氏
 ダノン インドネシア 政府・科学業務 シニアマネージャー マルフシタ ハンブルジワティ 氏
 イオンインドネシア株式会社 代表取締役社長 菓子 豊文 氏
 イオンインドネシア株式会社 マーケティング副ゼネラルマネージャー デマック タンプナン 氏
 イオンクレジットサービスインドネシア株式会社 代表取締役社長 檜林 靖規 氏
 イオンファンタジーインドネシア株式会社 代表取締役副社長 京楽 康士 氏

【11】アジアユースリーダーズ 2018 in ジャカルタ 参加校一覧

国	学校名	国	学校名
中国	TIANJIN TANGGU NO.1 HIGH SCHOOL	日本	北海道登別明日中等教育学校
	TIANJIN NO.100 SENIOR HIGH SCHOOL		秋田県立秋田南高等学校
	TIANJIN XINHUA HIGH SCHOOL		石川県立金沢泉丘高等学校
	TIANJIN NANKAI MIDDLE SCHOOL		お茶の水女子大学附属高等学校
	TIANJIN NANKAI HIGH SCHOOL		東京学芸大学附属高等学校
	Tianjin Binhai new area Ziyun High school		神戸市立葺合高等学校
	TIANJIN NANKAI 125th MIDDLE SCHOOL		関西学院千里国際中等部・高等部
インドネシア	Sam poerna Academ y Boarding School Jakarta		広島大学附属福山中・高等学校
	SM A Labschool Kebayoran		American School in Japan
	SM AN 29 Jakarta		マレーシア
	SM AN 6 Jakarta	M AKTAB RENDAH SAINS M ARA SUNGAI BESAR SELANGOR	
	SM AN 78 Jakarta	SEKOLAH MENENGAH KEBANGSAAN PUTRAJAYA PRESENT 14 (1)	
	SM AN 8 Jakarta	SEKOLAH MENENGAH KEBANGSAAN SEKSYEN 9	
	SM AN Unggulan M .H. Tham rin	SEKOLAH MENENGAH KEBANGSAAN METHODIST SUNGAI PUTU (U)	
	SM AN 1 M anon jaya	SEKOLAH MENENGAH KEBANGSAAN SEKSYEN 9 SHAH ALAM	
	SM AN 1 Pada larang	SEKOLAH MENENGAH KEBANGSAAN PUTRAJAYA PRESENT 8 (1)	
	SM AN 6 Kota Bekasi	ベトナム	
	SM AN 1 Depok		DINH THIEN LY HIGH SCHOOL
タイ	Bangkok Christian College		THE ASIAN INTERNATIONAL SCHOOL
	Triam udom sukha School		NGUYEN THIM NH KHAI HIGH SCHOOL
	Chulalongkorn University Demonstration Secondary School		MARECURE HIGH SCHOOL
	Satit Kaset International Program		MAC DINH CHIH HIGH SCHOOL
	Sarasas Ektra School		LE HONG PHONG HIGH SCHOOL
	The Prince Royals College	TAY THANH HIGH SCHOOL	
	Mahidol University International Demonstration School		

【12】参加高校生の感想（アンケート、インタビューより抜粋）：



プログラムを通して、他国のチームメンバーとコミュニケーションをとることによって多くの友人をつくることができ、友人ネットワークの輪を広げることができたと思います。今後は SNS を利用して、プログラムで 学んだことを多くの人々に広めていきたいです。

中国人男子学生

他の国からの参加者の皆さんともっとお互いの文化について話す時間が欲しかったです。プログラムが終わった後も、特に食品ロスについて友人と更に学習を進めていきたいと思っています。チームディスカッションでは、お互いの意見を受け入れ、協調性を持つ大切さを学びました。

中国人女子学生



このプログラムに参加できて良かったです。他の国々の人たちとお互いの文化について情報交換をしたり、多くの新しい友人ができました。毎日スケジュール通りに行動し、チームで課題をまとめるのは大変でしたが、それが良い経験になったと思います。

インドネシア女子学生

1 週間のプログラム中は、レクチャーや視察の後、毎日チームメンバーと一緒に夜遅くまでプレゼンテーションの内容をまとめる作業をしていました。チームの順位も大切ですが、それ以上にチームワークを通して得た経験値が自分にとって大事な思い出になりました。

インドネシア女子学生



自分の意見をチームメンバー伝える難しさを学びました。コミュニケーションをとる上で言葉の壁がありましたが、時間をかけてディスカッションをすることによって、最後にはチームメンバー全員が同意できる所までたどり着く事が出来ました。同時にこのプロセスが、チーム内でお互いの理解を深めるために大切であると思いました。今後学校でディスカッションをする機会がある時には、もっと積極的に意見を言う様にしていきたいと思っています。

日本人男子学生

チームディスカッションでは、異なるバックグラウンドを持つそれぞれの国の意見をたくさん聞くことができ、良い経験になりました。お互いの意見を聞くことによって、それぞれの良い点、悪い点を見つけることができ、最終的にチームでの考えを上手くまとめられたと思います。

日本人女子学生

アジア 6 国からの参加者で構成されるチームには、文化や民族の多様性があり、課題を複数の観点から
見ることができるので、より良い解決策を考えることができました。プログラム終了後は、ここで
学んだことをボランティア活動への参加を通して伝えていきたいです。

日本人男子学生



チームディスカッションを通して、自分自身の英語力をもっと高めたいと思いました。また、チームごとで
意見をまとめて発表する過程で、リーダーシップについてもっと勉強したいと思いました。

マレーシア人男子学生

このプログラムに参加することで、チームワークの難しさを学んだとともに、それがうまく いけば、大き
な成功に繋がることがわかりました。マレーシアの他の学校の人たちや、中国、日本、インドネシア、タ
イ、ベトナムの参加者と色々な意見交換ができてよかったです。 プログラムを通して学んだ健康的な食
生活の実践について、他の機会を利用して発表したいと思います。

マレーシア人女子学生



特に食品ロスについて身近な問題であったので興味を持ちました。また、チームワークを通して異なるバツ
クグラウンドを持つチームメンバーそれぞれの意見を聞き入れながら進めていくことの大切さを学ぶことが
できたと思います。

タイ人男子学生

このプログラムへの参加を通してチームワークについて多くを学びました。チームメンバーの意見をしっか
り聞く事や、言葉の壁がある時には、確認しながら話し合いを進めることが大切だと思いました。
今後は、友人や家族にも影響を与えられる様に、自らが手本となって健康的な食生活を実践していきたいと
思います。

タイ人女子学生



チームメンバーは、出身国が異なっても皆親しみやすく、すぐに仲良くなることができました。チーム
ワークについても真面目に取り組むことができました。過去にプログラムに参加した人たちにも会いた
かったです。今後もこのようなディスカッションプログラムに参加したいです。

ベトナム人男子学生

チームワークを通して、チームメンバーの意見をよく聞く事の大切さを学んだと思います。また、このプロ
グラムは、アジアの他の国々の生活文化についても、たくさん意見交換ができる良い機会になりました。最
終日に発表したことは、今後様々な場所で発表していきたいと思います。

ベトナム人女子学生